

全道基地問題交流集会（2011年11月12日：千歳）

報告：苫小牧地区労連 伊藤富志夫

1 米軍戦闘機訓練移転実施

(1) 過去4回実施

- ①08年2月：タイプI（FA18～4機、数十名、4日間）
- ②08年12月：タイプI（F15～5機、70名、5日間）
- ③09年4月：タイプI（FA18～5機、30名、4日間）
- ④10年11月：タイプII（F15～12機、170名、12日間）

2 米海軍駆逐艦「グリッドレイ」の苫小牧西港への寄港

(2) ブルーリッジ以来10年ぶり

- ①ここ10年間繰り返す米艦船の西港寄港が画策されてきましたが、苫小牧市の「非核平和都市条例」（2002年成立）や米軍の事情等もあり、西港への米艦船寄港を許さなかった苫小牧市であった。
- ②2011年2月5日から9日、駆逐艦「グリッドレイ」の西港寄港が強行された。
 - ・市長の態度＝条件が整えば受け入れる（核兵器を搭載していない。岸壁が確保できる）。
 - ・私たちの取り組み＝
 - ・1月19日米艦船寄港反対実行委員会立ち上げ
 - ・21日寄港受け入れ拒否の市長要請行動（8団体11名）
 - ・28日寄港決定抗議と監視体制チェックの市長要請行動
 - ・2月5日寄港日現地抗議行動（早朝、85名）

3 陸上自衛隊「千歳～苫小牧の32キロを戦車公道走行」

(3) 11月10日から大分県日出生台演習場に千歳から戦車4両・車両120台、人員410名が参加。「動的防衛力の構築」「南西地域の防衛体制の強化」が目的で、戦車を公道走行させるという。

- ①戦車は11月6日夜東千歳駐屯地から国道36号、7日未明苫小牧西港へ。
- ②2005年から帯広～鹿追の公道走行（90キロ）、千歳市内の演習場までの走行（10キロ）はすでに他地域で実施。
- ③「動的防衛力」というように、市民への「慣熟」の何ものでもない。
 - ・取り組み＝11月1日市長へ「公道走行中止の要請書」提出
 - 11月6日抗議の集会

4 最後に～憲法と自衛隊そして住民自治（財政）

(4) 災害救助の自衛隊参加が象徴的なように、軍隊である自衛隊が、私たちの日常に身近に登場する場面が多くなった。しかし、憲法が主張するように平和は暴力と相容れないものであり、暴力の象徴自衛隊の存在を改めて問う必要がある。憲法、安保、自衛隊、米軍これらを住民の自治（財政）から再考する時が来ている。

ひとたび原発事故が起きれば、地球全体が極めて長期間、放射能汚染に見舞われます。この度の事故で原子力発電の危険性とともにより原子力に依存する社会の危険性を再認識しました。

将来に禍根を残すことがないよう原発に頼らない社会を創るために、ごいっしょに考えましょう。

8月11日(木) 18:30~

第1部 18:30~ (1時間半予定)

苫小牧市民会館3Fホール

脱原発・自然エネルギーを

すすめる会

(仮称)

講演

「原発に頼らない社会はつくれるのか」



講師：大友 詔雄 先生

自然エネルギー研究センター長

株式会社 NERC

北海道木質ペレット推進協議会

NPO法人 新エネルギー普及促進協議会

※聞きたいこと、質問したいことなどありましたら、事前にお知らせください。

資料代 300円

Fax 33-3286

第2部 20:00~ (15分間予定)

「脱原発・自然エネルギーをすすめる会」(仮称) 発足総会

発足総会



【日時】 8月11日(木)

午後6:30~8:30

【会場】 苫小牧市民会館3階ホール

準備会代表：浦田 操 事務局長：斉藤 秀夫
お問い合わせ 苫小牧地区労連 斉藤・佐々木
TEL 0144-33-3285 Fax 33-3286

